

# みんなの健康ラジオ

『精神障がい者のリカバリーを考える  
～社会機能の回復と人生の選択肢を広げるために～』

(2019年12月5日放送)

横浜市精神科医会

医療法人誠心会 あさひの丘病院

福島端・渡邊妙

# 統合失調症の薬物療法

(Recoveryを達成するためには・・・)

周辺症状は目立つが一時的

(前駆期) (急性期)

(回復期) (維持期)

中核症状の改善に適した  
主剤を選択する必要がある

周辺症状  
興奮, 攻撃性  
激越, (不眠)

陽性症状

認知症状・陰性症状

ベンゾジアゼピン  
バルプロ酸など

鎮静, 睡眠薬

主剤  
(抗精神病薬)

維持量 (D<sub>2</sub>受容体を70%遮断)

必要がなくなったら  
必ず漸減、  
中止していくこと



# ドパミンD2受容体 パーシャルアゴニストの意義

## 《パーシャルアゴニスト》

部分的な受容体の活性／神経伝達



固有活性のために、報酬系ドパミン機能が保持され、「意欲」や「楽しい」「何かをやりたい」を維持させる。

社会復帰の妨げになりにくいいため、Recoveryを目指す上で望ましい、と言われている。

## 《アンタゴニスト》

受容体を不活性／神経伝達をしない



アンタゴニストでは、ドパミン機能が抑制される。

# リカバリーを目指した統合失調症の薬物療法とは

- 継続可能であること
  - 第二世代抗精神病薬
  - 非鎮静系の薬物を使用
  - 体重増加、食欲増進、高プロラクチン血症など副作用が少ない
  - 持続効果性注射剤(LAI)
  - 1日1回投与の薬
  - 貼り薬
- 生活の質(QOL)を改善できること
  - 認知機能障害の改善
  - 陰性症状の改善